

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口 道成
申請類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者名	山本 一良
整理番号	R02	プログラムコーディネーター名	武田 一哉
プログラム名	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムでは、情報科学・工学・医学系・経済の4研究科に跨る、機械・人間・社会を対象にした、「データ取得の学理」と「データ解析の数理手法」を体系的に学ぶとともに、「多くのケーススタディ」を行うことで「実世界データ循環」を俯瞰する力を養う。さらに、豊富な海外経験や産業現場の経験を通して、この俯瞰力を確固たるものにしつつ、実世界データ循環による社会的価値創造に寄与しう博士論文研究を行うことで、「実世界データ循環」を構築する力を得る。このようなプログラムを高い意欲と学力を持った学生に対して実施することで、産業界における将来のリーダー候補を養成する。

研究科に跨る学域において、学位プログラムを柔軟に（複数専攻教員の協働、外国人特任教員の雇用、国外からのプログラム参加）設立することを可能にする改革を行い、グローバル社会（採用側、入学側）のニーズに応え得る（top 100を確固たるものにする）教育研究組織を目指す。

### 2. プログラムの進捗状況

- (1) 平成26年4月に一期生17名（正規履修生15名、準履修生2名）を受入れ、カリキュラムの整備を進めつつ、M1年次向けの教育プログラムを実施するとともに、履修学生スペース（リーダーズサルーン、リーダーズスタジオ）の整備、SNSとe-Portfolioの連携システム（eアゴラ）など、育成環境の整備を進めた。また、専任教員11名、事務補佐員9名を採用し、運営体制を整備した。
- (2) 外国人を含む特任教員を採用し、国内外の学外教員との実施調整を行い、多角的な教育体制を整備した。学内組織「リーディング大学院推進機構本部」を通じて、学内6リーディングプログラムとの連携体制を作るとともに、6リーディング共通の統合プログラムを開講した。
- (3) 卒業論文、大学院入試成績、人材啓発セミナー資料、英語を含む面接を、企業教員、若手教員を交えて行い、25名の志願者から14名の二期生（外国人6：日本人8、情報4：工学7：医学2：経済学1、男性12：女性2）を選抜した。
- (4) データ処理ツールに関する実習的科目、Data Tools First、Data Tools Next、及び実世界データ解析学特論を開講するとともに、英語能力向上のため、フィリピンでの語学研修及び英語クラスの開講を実施した。